平和行進活動交流ニュース

発行:原水爆禁止国民平和大行進中央実行委員会事務局

電話:03-5842-6031 FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com

2013年 6月17日 No.9

被災地連帯 陸前高田で震災後3年ぶりの平和行進

6 月 15、16 日に岩手県と宮城県で行われた 2013 年原水爆禁止国民平和大行進・被災地連帯平和行進に参加した日本原水協担当常任理事の田中章史さんのリポートです。

仮設の市役所からダンプの行きかう復興道路を歩き、仮設の商店街に

6 月 15 日午後 1 時、大船渡市盛駅前で気仙地区原水協を中心に出発集会。会長の田村長平さんは、1958 年からチリ地震のときでも休まず歩き続けたが、3 年前の東日本大震災では中止した。しかし昨年も歩いてきた。平和行進は大船渡市の平和運動の要だ。憲法を変えるなどというとんでもない話があるが、原水爆禁止運動を起点にとりくみを広げ、世界大会に代表を送って成功させよう！元気に一歩一歩歩きましょうと呼びかけました。

20 人の参加者は、商店街を元気よく歩きました。大船渡市職労の役員は世界大会に青年を送りたいと話していました。

私はメールで届いた、アンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表が世界大会に参加し、8 月 7 日にスピーチすることが決まったという最新情報を皆さんに伝え、世界大会への参加を呼びかけました。

行進ができてうれしかった。亡くなった人のことを思い歩く

午後 2 時半には仮設の陸前高田市役所前で震災後 3 年ぶりの平和行進出発式。陸前高田市職労の菅原委員長が、以前はリプレ（国道の大型店）から道の駅まで歩いたのが懐かしい。今日は 3 年ぶりの行進を元気に歩こうとあいさつ。

市職労、新婦人、年金者組合、民商、共産党議員など 20 人は、眼下には更地となった元の街並みが見える高台から、ダンプカーが頻繁に行きかう復興道路の歩道を仮設の商店街のあるところまで約 30 分間、元

気に歩きました。

市職労の役員は、とにかく平和行進ができてうれしかった。前はこうして歩いていたよねとなつかしかった。また一緒に歩いていた亡くなった人のことを思い出しながらみんな歩いたと思う。民商や市職員で亡くなりまだ遺体が見つかっていない人もいる。市内の民主団体が顔を合わせる貴重な場でもあったので当時のことを思い出しながら歩いた。世界大会には若者を是非派遣したいと話していました。また別の参加者は、2010 年に一緒に歩いた人を思い出しながら歩いた。津波でいろいろ失ったが今日行進して一つ取り戻したと話していました。3 年ぶりの行進は笑顔の中、力強いものがありました。

一関では 4 キロを歩き、歓迎集会で世界大会への 5 人を上回る代表の派遣を確認

午後 4 時過ぎ、一関市山の目駅前で幹線コースと東磐井コースと気仙コースが合流。文化センターまでの 4 キロを岩手県内通し行進者の松田和彦さんを先頭に、手を振りながら楽しく歩きました。

午後 5 時からは両磐地区歓迎集会が一関文化センターで行われました。今年一関市原水協の会長になった石山健さん（市議会議員）が開会のあいさつをし、平和行進実行委員長の藤原千一さん（農協労組委員長）が主催者あいさつ。松田さんが、6 月 8 日に青森からバトンを受け今日まで貫徹できた。県内すべての自治体が非核平和都市宣言をしている中で、首長、議長、職員組合からペナントをもらうなど全住民の総意を受け取ってきたと発言。一関市長の勝部修さんからのメッセージが紹介され、岩手県原水協の津村喬事務局長の発言の後、基調報告を私が行いました。

私ははじめに今年の世界大会にアンゲラ・ケイン国連軍縮問題担当上級代表が昨年に続いて参加されるとのニュースが入った。これで 2008 年から 6 年連続して国連の代表が世界大会に参加されると報告。日本原水協は被災地連帯行進には人を派遣することにして、岩手に参加したこと、陸前高田では 3 年ぶりに平和行進が実現したこと、いま核兵器を持っている国を動かすために出されたのが「核兵器の人道的影響に対する共同声明」で、80 カ国の国々が核兵器をなくす勢いを示した。しかし日本政府は賛同しなかった。日本政府を被爆国の政府としての決断と実行を求める声が全国で広がっている。参議院選挙をたたかいながら世界大会の成功をめざして大いに力を発揮して欲しい。世界大会にはアカデミー賞を二度も受賞したオリバー・ストーン監督が参加してスピーチする。署名を広げ、原爆展を開催するなどの取り組みを通じて世界大会への参加を大いに広げてほしいと話しました。

世界大会に 5 人以上の代表を送ることなどを提起した集会宣言を一関病院労組の役員が提案。閉会あいさつで一関原水協事務局長の松岡守男さんが一関での参加者の状況を報告し、世界大会へ 5 人以上の参加者組織と募金のお願いをしました。

16 日　栗原市で岩手から宮城に引き継ぎ
二度と戦争は起こしてほしくない。町中を歩いて声をかけてくださいと激励も

16 日は 10 時から一関市内を行進し、合併した花泉を通り、岩手と宮城の県境にかかる「かりや橋」で宮城のみなさんの歓迎の中合流。栗原市若柳公民館で引継ぎ集会が行われました。

一関市内では、行進に手を振ってくれた自転車屋さんの 71 歳の御主人は、「二度と戦争は起こしてほ

しくない。町中を歩いて声をかけてください」を激励してくれました。あまり伝えられていませんが、一関市内は東日本大震災の 4 月の余震で 5000 戸を超える家に被害が出たこと、また市町村合併で隣接するのが気仙沼、陸前高田、山形県という広大な面積となり、行政サービスの面でも多くの課題があると市職労の役員は話していました。

花泉では、家の前に出てきて深々と頭を下げて見送る女性の姿や、手を振ると二階の窓から手を振って応えてくれる小学生など、どこでも歓迎されました。

昼食休憩では、一関市職労花泉支部（組合も合併）の佐藤弘之さん（元花泉町職委員長）が、「合併前には非核平和都市宣言を行っていて、その平和を願う声で合併後の一関市も宣言を行うことができた。今日は今年入った新入職員と一緒に参加している」と発言。この青年にオリバー・ストーンさんが世界大会に来ると話すと目を輝かせたので、市職労の役員とも是非世界大会に参加をと呼びかけました。

午後の行進では、チラシも持って手を振っていただいた人に渡して対話を心がけました。庭仕事をしていた女性にチラシを渡すと、「私の身内にも被爆者がいるのです。頑張ってください」と励まして下さいました。

青森から５５０キロを歩き、宮城へ

若柳公民館での引継ぎ集会では、平和を守る会役員で共産党市議の佐藤さんが、「みなさんの運動が市長の姿勢も変えさせてきた」と歓迎のあいさつ。一関原水協会長は「一関ではセシウムの問題が深刻で、野菜など作っても売れない。それなのに安倍首相は原発を海外に売り歩いている。被災地を忘れず原発も核兵器もない日本をめざそう」と発言。岩手県原水協の津村事務局長が、「6 月 8 日、青森から引き継ぎ 9 日間、550 キロを超える行進をしてきた。どこでも反応が良かったのが特徴で、その取り組みの中で世界大会の代表団の組織化も進められている。予定している数を超える勢いだ」と報告。宮城県を代表して県商連の伊藤さんが、「平和でなければ商売はうまくいかない。岩手のみなさんからのバトンをしっかりと福島につなげたい」と決意を表明。通し行進者の松田さんも発言。私は、陸前高田で 3 年ぶりに平和行進ができ、参加した人から「津波でみんな流されたが、今日みんなで歩いて一つ取り戻せた」と話されたことを紹介するとともに、アンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表が今年も参加することも報告。さらに今年はオリバー・ストーン監督と脱原発首長会議の三上湖西市長も参加するので、平和行進を成功させ、署名を広げ、世界大会への代表団を大いに組織してほしいと要請しました。またコットンマフラーで財政活動をと呼びかけたところ、平和委員会の女性が 10 本購入してくれました。

リレー旗の伝達をそれぞれ行い、固い握手で引き継ぎました。最後に目黒さんから、事前に自治体報告をして県と仙台市を除くすべての首長、議長からペナントや募金をいただいた。このお金で被爆者の方２名を長崎大会に派遣する。自治体の協力も年々増えてきている。ことしは南三陸と富里町から石巻市も行進することができる。23 日まで安全にも気をつけて頑張ろうと報告がありました。